

れいわ新選組機関誌

れいわPRESS

第15号

2025年11月30日発行

第219回
臨時国会スタート
高井たかし、山本太郎

れいわ新選組所属議員、
魂の国会質問(第11弾)

山本太郎、天畠大輔、佐原若子、
高井たかし、やはた愛、
さかぐち直人、上村英明

議員めし Vol.12
天畠大輔



<https://reiwa-shinsengumi.com/>

第219回 臨時国会 国会質問

高市早苗首相の所信表明演説に対して、臨時国会で各党の代表質問がスタート。今回、山本太郎代表、高井たかし幹事長の国会質問を掲載します。



衆議院議員 ^{たか} ^い 高井たかし

2025 年11月5日 衆議院本会議

結党以来の党是である消費税廃止、
少なくとも一律5%減税とインボイスの廃止、
加えて10万円の現金給付を第一に行い、
不況に苦しむ国民を救済すべきと訴え、同時に、防衛費増加の見直し、
対米従属外交からの脱却、原発政策の転換、議員定数削減合意の撤回、
企業団体献金禁止の実現を新総理に迫りました。

30年続く不況に、コロナに、物価高。
三重苦に苦しむ国民が望んでいるのは消費税廃止です。
このままでは、失われた30年は40年になります。
消費税廃止、少なくとも一律5%減税とインボイスの廃止、加えて10万円の現金給付、これこそまず第一にやるべきではないですか。
れいわ新選組が、ダルダルにたるみ切った国会に緊張感を与えます。
この国のオーナーの皆さん、本気で闘う野党を再編し、本物の政権交代を実現させましょう。
れいわ新選組が、何があっても心配するな、そんな国をあなたと一緒につくります。



参議院議員 山本太郎

2025 年11月6日 参議院本会議



株価上昇が庶民の生活改善につながっておらず、現金給付の必要性を説きました。
生活困窮の実態を示し、給付金撤回や竹中平蔵氏叙勲への政府姿勢を厳しく追及。
また、郵政民営化や非正規拡大を例に、高市首相が推進した小さな政府路線の弊害を指摘。
そして、長期不況の元凶が消費税増税であることを示し、消費税減税と一律現金給付の
即時実施を求めました。最後に、「あなたが生きているだけで価値がある国を」と訴えました。

国民の皆さん、株価が上がった、景気が良くなる、そんな報道にだまされないうでください。毎度のことで

す。
どれだけ株価が上がろうと、一般庶民の生活にほぼ影響なし。庶民は更なる困窮状態です。

今年2月、生活困窮世帯への調査で、約9割の世帯が、この1年、暖房や冷房をつけないで過ごしたと回答。何をどう考えても現金給付は必要です。

総理、国民を殺す気ですか。給付金は限定ではなく、物価高が収まるまでの間、季節ごとに10万円の一律給付が必要です。大金持ちからは後から税で回収を。

高市さんの政治キャリアの中でも、小泉・竹中イズムは確かに生きている。2005年、小泉自民党の郵政民営化を積極推進する候

補として、高市さんは竹中

平蔵の応援も受けて、当選。利用者の利便性の向上を図ると民営化を大絶賛。安倍政権下では、総務大臣として郵政民営化を更に進め、新たなサービスが充実したと成果を力説しました。

民営化後、4社体制への統合以降で見ても、858局もの郵便局が閉鎖され、420箇所もあった24時間窓口はゼロに。

これが高市さんがかつて掲げた利便性向上の実態。

30年に及ぶ不況、そのA級戦犯が消費税の増税。政調会長や総務大臣の立場からも、消費税増税を強力に支持、推進、積極推進してきたのが高市さんです。

永田町では、野党による消費税減税やるやる詐欺が吹き荒れた。昨年10月、大躍進した国民民主党の議員が国会で消費税減税の必要性

を政府に求めたのは、たった2回。ちなみに、れいわ新選組は45回。

そして、維新。連立入りする直前、テレビ番組で吉村代表は消費税減税も連立の重要条件と掲げたが、数日後、連立入りが決まると、藤田共同代表は消費税について事実上先送りになったと手のひら返し。

参政党に至っては、消費税廃止の財源は40兆円の医療費を半分にすればいいと代表が発言。消費税が下がっても、あなたの大切な人が殺される。お話になりません。

日本を復活させるといって高市総理、どうか勇氣を持って一歩踏み出してください。れいわ新選組からの心からのお願いでございました。そして、一緒にやってみましょう。

れいわの議員が多すぎて
誰がどんな質問をしているのか
チェックするのが大変! というあなたに——。

魂の国会質問

れいわ新選組
所属議員たちの
第11弾

6月2日から6月6日

2025年1月24日に開会した通常国会より、れいわ新選組に所属する議員たちの注目の国会質疑を要約してピックアップ!
第11弾の今回は7項目の質疑を、写真と共に紹介します。

参議院議員 山本太郎

2025年6月2日 予算委員会

1

長引く経済不況や物価高で国民の生活が限界に達しているため、消費税廃止と現金給付の必要性を指摘。また、立憲民主党から一部の資料パネルを「他党の政策批判は認めない」などの理由で使用禁止にされたことを言論弾圧と批判しました。そして、「災害時の重機支援拡大を全国に適用すべき」と総理に求め、「災害救助事務取扱要領」への明記を言質として答弁で引き出し、「このような対応が被災地から求められている」と訴えました。



5月、参議院選挙が近づき、どの党も思い出したかのように消費税減税をまた訴え始めた。当然、それら内容を比較検討し政策論争を深めることは大変重要。そのために準備した資料、パネルが、前回、本委員会で使用禁止にされました。他党との政策を比較して議論を深めたり、野党であっても間違った政策があれば指摘することは有権者の信を受けた国会議員としてやるべき仕事。一部理事の感情や判断で禁止してよいはずがありません。

やまもと・たろう

1974年兵庫県宝塚市出身。れいわ新選組代表。2019年4月、独自で「れいわ新選組」を旗あげ。草の根による国政政党設立へのチャレンジを始める。

動画はこちら



参議院議員 天畠大輔

2025年6月3日 厚生労働委員会

木村・船後・天畠議員で主催した厚労大臣告示523号にある
重度訪問介護の理不尽な利用制限撤廃を求める院内集会で出た事例を紹介。
自営業の視覚障がい者が、買物にヘルパー同行を頼む際「買うはさみは仕事用か個人用か」などと、
一品単位で毎度事業所に問いただされている。つまり告示523号に規定のある利用制限により、
障がい者が、行動を過剰に逐一監視されており、結果として社会参加が阻害され、
「制度的な虐待だ」と訴えました。



告示523号の存在が現場を萎縮させています。障がい者の
社会参加が妨げられ、健常者であれば自由にできる
行動が不適当とされ、差別や孤立につながっています。
さらに、政治活動や選挙活動といった外出さえも
制限される場合があります。異議申立てのチャンスさえ
ないのです。これは制度的な虐待と言っても
過言ではありません。

てんばた・だいすけ

1981年生まれ。14歳の時、医療ミスにより、
四肢麻痺・視覚障がい・嚥下障がい・発話障が
いを負い、重度の障がい者となり車椅子生活と
なる。2020年に一般社団法人「わをん」を立ち
上げ、重度障がい当事者の支援活動を開始。



動画はこちら

衆議院議員 佐原若子

2025年6月3日 原子力問題調査特別委員会

原子力問題調査委員会アドバイザー委員への質疑が行われ、核燃料サイクル政策に疑問を呈し、
国民が参加する開かれた議論の重要性を強調しました。また、参考人への質疑を通じ、
エネルギー基本計画にある小型原発の建設用地の問題や使用する核燃料の濃縮、製造など
様々な課題があると指摘をし、直接処分への転換や現実的なフェーズアウト政策の必要性を訴えました。
再生可能エネルギーの推進や共生の精神を大切に、原発依存からの脱却を求めました。

エネルギー基本計画の中の小型原発について、日本では、
建設用地の問題や、建設主体、使用する核燃料の濃縮、
製造など、様々な課題があると思います。特に核燃料の
濃縮は、これまでの原発の燃料の5～6倍も高いとも
言われています。現在それができるのはロシアだけとも
言われています。日本ではどうするのか、建設用地もデー
タセンターの周辺に確保しようとするのか、疑問です。



動画はこちら

さわら わかこ

1953年青森県五所川原市出身。歯科医師。
核戦争に反対する医師の会 (IPPNW) 常任世
話人。核燃阻止一万人訴訟原告団・副代表。

衆議院議員 高井^{たか い}たかし

2025年6月3日 財務金融委員会



財務金融委員会において、信託業法改正案の質疑が行われました。
法案質疑に先立ち、財政悪化を理由として必要以上に国債発行を渋る財務省に、先進国における自国通貨建ての国債はデフォルトしないという考えに対する政府の見解を質しました。
財政規律・緊縮財政の立場をとり、国債発行に後ろ向きな財務省は曖昧な答弁を繰り返し、正面から答えることはありませんでした。



自民党の森山幹事長が、2兆5千億、農業関係の予算を確保してくれと発言しました。しかし疑問なのは、こういうときには財源の話はされないということ。ふだん我々が何かやろうとすると「財源どうするんだ」と言うのに、これは財源なくていいんですか、大臣。私たちは国債でやればいいと申し上げていますから、財源は別に示さなくていいと思いますが、皆さんがいつも示せしめと言うので、非常におかしい矛盾した発言だなと指摘させていただきました。

たかい・たかし

1969年北海道函館市出身。れいわ新選組幹事長。通算国会質問回数は225回。法案提出数は119本。国会質疑衆議院議員1位。



動画はこちら

衆議院議員 やはた^{あい}愛

2025年6月4日 厚生労働委員会

なぜ“秋まで”にこだわるのか…。

高額療養費の引上げについて、秋までに議論の方向性を決めるという報道がなされています。「今一度立ち止まって、もっと当事者の意見を聞き、議論を重ねる時間をいただけないでしょうか」と切に訴えましたが、福岡大臣も厚生労働省も頑なに「秋までに」という期限をきることを譲らず、話の論点を逸らす答弁を繰り返します。「大臣のたった一言で希望が絶望に変わってしまうんだ」と当事者の想いを代弁しました。

そもそも高額療養費の引上げ自体が必要なのかどうなのかという声も上がっているなかで、この秋までにと期限を切るものではなく、もっと議論の時間が必要だと思います。ただでさえ物価高騰で生活が困窮する中、受診の抑制に拍車をかけます。国民の健康と命を脅かすことにもなりかねません。そもそも、国全体の医療費を削減するという思考回路はやめるべきで、もっと医療には公金を投入すべきだと私は引き続き訴えていきます。



やはた・あい

1987年兵庫県出身。グラビアアイドルやタレント活動の他リポーターやラジオDJも務める。2020年よりれいわ新選組としての活動を開始し2023年11月衆議院大阪府第13区総支部長に就任。



動画はこちら

衆議院議員 さかぐち直人^{なおと}

2025年6月4日 外務委員会

カンボジアのフン・マネット首相が5月28日から31日まで来日。

大きく後退するカンボジアの民主主義を静観する政府に対し、「平和外交の力の根源の一つは、政府として国境を越えて、戦争や人権侵害に苦しむ方々の側に立てるかということ。信頼される、尊敬される国になるということは、日本の国益にもつながる」とした上で、カンボジアの人権問題を「見て見ぬふりすれば、日本の人々への失望に繋がりがかねないことを強く指摘したい」と政府に訴えた。

私には理解不能なんです。民主主義の知見共有を通じて、カンボジアの取組を引き続き後押しとありますが、カンボジアの民主主義は大きく後退していると言わざるを得ません。協力の成果を根づかせるといっても、今自由に発言もできない社会になってしまっています。また、人権状況決議のペンホルダーの日本の役割を高く評価とありますが、厳しく指摘してくれたことを評価するのか、見て見ぬふりをしたことを評価するのか、意味不明です。



動画はこちら

さかぐち・なおと

1963年生まれ。2009年8月、衆議院議員に初当選。れいわ新選組副幹事長。ボランティア本部事務局長。



衆議院議員 上村英明^{うえむら ひであき}

2025年6月6日 内閣委員会

リニア新幹線計画がもたらす環境リスクについて質問しました。

大深度法を使ったトンネル工事は大きな問題をはらんでいます。特に静岡工区では、南アルプストンネル掘削による大井川の水枯渇により、農業への深刻な影響が危惧されています。JR東海の対策は限定的で、地盤沈下や有害残土の処分など、「自然環境の中での大規模開発には、

取り返しのつかないリスクがある」ことを指摘しました。

地域住民の声を踏まえた慎重な対応を求めています。

JR東海は2024年の3月に、2027年の開業を、先行開業の部分を断念すると発表しました。

さらに報道によると、2034年の開業説も飛び交っています。計画が大幅に遅れている理由は、どういうふうなことがあるのか。民間計画を強調する政府にその責任の認識を尋ねました。



うえむら・ひであき

1956年熊本県出身。アイヌ民族や琉球民族の先住民族としての国連活動を支援。社団法人新時代アジアピースアカデミー理事、人権NGO市民外交センター元代表



動画はこちら



れいわ新選組議員の推しグルメを紹介！

議員めし

腹が、減った…

Vol.12 天畠大輔
特選よせとうふ



東京都青梅市にある「とうふ工房ゆう」の特選よせとうふ。

大豆の甘みが濃厚で舌触りもクリーミー。咀嚼や嚥下の力が弱い私でも食べやすくてとてもお気に入りの一品です。

湯豆腐や冷奴でももちろん美味しいのですが、私は黒蜜ときなこをかけて和のスイーツとして頂くのが好みます。1年前までは500円/個だったのですが、物価高騰のあおりを受けて現在は600円/個とちょっと贅沢なお豆腐です。



れいわ新選組
HP はこちら



れいわオーナーズ
ご案内はこちら

あなたが、れいわ新選組のオーナーになりませんか？



ご寄附の受付

れいわ新選組は、皆さまからの寄附をお願いしております。頂きましたご寄附は、れいわ新選組が取り組んでいる政治活動、事務所運営費等に活用させていただきます。

れいわPRESS 第15号



発行・れいわ新選組 れいわPress編集部
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-5-20 押田ビル4階
TEL:03-6384-1974